

## 報告にあたって

2011年10月15日（土）、和光大学E棟101教室で、総合文化研究所催し物企画として、シンポジウム「子どもを育む『わ』の心」が開催された。

このシンポジウムは、2010年度の和光大学総合文化研究所主催公開シンポジウム「子どもを育む『環境』の力」の続編として企画された。昨年度は、子どもの健全な育成のために必要な「環境」について、様々な「モノ」、そして「人」、さらにはそれらの関わり合いが生み出す「関係性」や「場」まで視野を拡大し、理解を深めることができた<sup>1)</sup>。本企画はこの内容を引き継ぎ、子どもの健全育成のために必要な環境について考えながら、特に2011年3月の東日本大震災を受け、今、日本の子ども達に必要とされる環境について、「わ（和・輪・環）」を切り口に理解を深めることをねらいとした。

シンポジウムは、野中浩一現代人間学部教授によって司会運営され、まず、日本舞踊花柳流師範、西原和総合舞踊研究所を主宰する花柳和氏が「『和』の心——おどり・伝統文化を通して伝えてきたこと」と題して、自身の舞踊人生をもとに子ども達との関わりを振り返り、今、思うことを語った。

次に、福井県の清水保育園園長竹内麗子氏が「地域のつながりの中で広がる遊びの「輪」——保育所を核とした地域療育ネットワークづくり「たけのこ教室」30年の実践」と題して、貴重な記録映像と共に保育園を軸とした地域療育の発展の経緯を伝えた。

最後に、小林芳文現代人間学部教授が「笑顔が笑顔を呼ぶ好循環「環」——生きる力を支えるムーブメント教育・療法の実証的研究」について講演した。熱を込めて時折動きながら語る小林教授の姿に「ハッピーは分かち合えば増える！」を

---

1) 仁志田博司・小林芳文他（2011）「子どもを育む『環境』の力」、和光大学総合文化研究所年報「東西南北2011」4-34。

体現している小林先生に、「元気を分けてもらいました」などの感想が寄せられた。

シンポジウム当日は、和光大学関係者のみならず、教育・保育・療育・行政に携わる方々、他大学の大学院生、地域住民の方々など約70名の参加があり、また、静岡県など遠方からの参加者もあって、活気あるシンポジウムとなった。

催し全体について参加者からは、「どのお話も元気になる内容で、子どもと関わっていく上で、大切なお話をたくさん聞くことができよかったです」、「子どもの育ちを支える立場として『わ』の心を意識する大切さに気づきました。自分自身も一緒に楽しんでいきたいなと思いました」、「3つの貴重な講演が、とてもバランスよく良かったです。人としてどうありたいかという基本的なことをあらためて考えることができました」などの感想をいただいた。

最後に、本シンポジウムの開催にあたり、お力添えいただいた方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。

[小林芳文 所員／現代人間学部教授／大橋さつき 所員／現代人間学部准教授]